



祭りの締めくくりは今年も、菱浦湾内の至近距離で打ち上げる大迫力の水上花火大会です。総打ち上げ数2,900発、今年はいアガラ(火の粉が滝のように見える仕掛け花火)や尺玉(直径30cmの10号玉。到達高度330m、花火直径320cm)の大輪4発も炸裂し、地響きがリズムカルに轟くスターメイン(速射連発花火)80発には大歓声と拍手喝采が巻き起こりました。

なお、今年は祭りに合わせ、隠岐世界ジオパーク魅力アップモニターツアーが行われました。日帰りや1泊などの短期旅行でも

隠岐世界ジオパークの魅力を満喫できるよう工夫された試験的なツアーで、隠岐支庁県民局や島前各島の観光部門が企画し、隠岐汽船や一畑トラベルなども協力。ツアー客約70名は昼間、島前の絶景地をめぐる雄大な自然や名物のえりやき鍋を楽しみ、海士町に着いてからはパレードに飛び入り参加。花火大会の後はチャーター船に乗り、隠岐の食材36品目からなる「祭御膳」を味わいつつ七類港へ。珍しいフェリーの夜間航行を楽しみました。

世にも珍し  
唄えや踊れ  
苦勞忘れて  
酔うほどに  
持つて来いよ  
キンニヤモニヤ  
キクラゲチャカポン



とどげとどげよ  
末までとどげ  
末は鶴亀  
五葉の松  
持つて来いよ  
キンニヤモニヤ  
キンニヤモニヤ  
キクラゲチャカポン



海士の港に  
唄声すれば  
老いも若きも  
踊りだす  
持つて来いよ  
キンニヤモニヤ  
キンニヤモニヤ  
キクラゲチャカポン





# 海士町にこの祭りあり!

## 第20回



※QRコードをスマートフォンで読み取ると動画が観られます。詳しい方法はP5をご覧ください!

# キンニャモモニヤ祭り



8月22日(土)、海士町最大のイベントである真夏の祭典「キンニャモモニヤ祭り」の第20回記念大会が、菱浦港周辺にて開催されました。この祭りは、隠岐國商工会を中心とした実行委員会(田仲壽夫委員長)が毎年8月第4土曜に開催している海士のシンボリックな催しで、平成8(1996)年の開始以来、来場者は年々増加。メイン企画であるキンニャモモニヤ・パレードには島外からの参加者も多く、踊り子は毎回千人を超えます。今年のパレードには県内外の31団体1092人が、約1時間、二重の輪になって笑顔で踊り切りました。

前夜祭はあいにくの悪天候でスカイランタンの打ち上げが中止になったものの、祭り当日は嘘のような快晴。酷暑の中、地元小学生による民謡や、勇壮なかわず太鼓、ステージ前が興奮のるつぼと化すクジ入り餅投げ大会と続き、いよいよ開会式。今年も記念大会ということで、これまで祭りの振興・普及に功績があった7名・団体へ感謝状が贈られました。

芸能ステージが終わると、18時からはいよいよ、生唄と生演奏をバックに踊るキンニャモモニヤ・パレード。進行の遅さを解消するため、今年は踊りの輪を二重にし、向かい合わせにすれ違うやり方に変更。他のチームのメンバーと挨拶を交わしたり表情を見ることができるようになり、より楽しく踊り続けることができました。

コンテストでは、けいしよう保育園が元氣はつらつ賞、男性陣の白塗りメイクで観る人の度肝を抜いた中里諏訪チンドン道中がユーモア賞、キンニャモモニヤを海士に広めた松太郎じいさんと女装版キヨが率いる北分区が和気あいあい賞、京都造形芸術大学と法政大学の学生らによる海士町交流大学生チームが島根県賞、そして栄えあるキンニャモモニヤ賞は、綺麗にそろった踊りが目を引いた西区が受賞しました!



小沢千月さん直筆の文字が加わったキンニャモモニヤ像。除幕式では感動の涙も..